

# 教育学部生による小・中学校体育に対する認識傾向

- 過去5年間の調査の比較を通して -

A Study of Trends Toward University Student's Understanding  
of P.E in Compulsory Education

平井 章\* 山本裕之\*\*

Shou HIRAI Hiroyuki YAMAMOTO

## 要 旨

各種審議会で指摘される現代の子どもたちの危機的状況に対して学校体育は何が出来るかという問題意識から、教育学部生に小・中学校時代の体育について調査を実施し教科の特性及び課題把握を試みた。体育は子どもたちに大変好まれている教科である。授業が運動技術の習得とともに人間関係を学ぶ重要な機会となっている。学習したことは、日常生活で役立ち生活を豊かにしている。従って教育になくてはならぬ教科として認識されている、などが明らかになった。

[ キーワード ] 子どもの危機、教科の嗜好、体育科の特徴、運動の学習、  
体育の評価

## I . はじめに

現代の子どもたちの特徴として、第15期中央教育審議会は次のように捉えている。まず、現代の子どもたちの積極面、つまりプラスの側面として「人生を楽しく過ごすこと・遊び心」、「センスの良さ・スマートさ」、「異なる文化を受け入れる頭のやわらかさ」、「自分の意見を率直に述べること」、「国際性」、「感性の豊かさ」、「流行に敏感である」、「メカに強い」、「社会参加や社会貢献に対する意欲が高い」などを上げている。

一方、マイナスの側面として「子どもたちの生活の現状」では、「ゆとりのない生活」、「社会性の不足や倫理観の問題」、「自立の遅れ」、「健康・体力の問題」などを指摘している。

つまり、現代の子どもたちは物質的な豊かさや便利さの中で生活する一方で、ゆとりのない忙しい生活を送っている。またテレビなどマスメディアとの接触にかなりの時間をとり、疑似体験や間接体験が多くなる一方で、直接体験・自然体験が著しく不足している状況が指摘されている。

\* 島根大学教育学部保健体育研究室

\*\* 島根大学大学院

これらの指摘に対して我々学校体育に関わる者は、いったい何が貢献できるのか？如何に貢献できるのか？が問われる。

また、教育課程審議会の答申においても小・中学校の体育では、児童生徒の体力・運動能力の低下、運動習慣の実践力が身に付いていないこと、武道の学習指導の不適切さなどが指摘されている。保健では、生活習慣の乱れ、ストレスや不安の高まりなどが指摘されている。

本稿では、これらの一連の指摘をふまえながら、かつて児童生徒であった教職指向の大学生を対象にして、彼らが受けてきた小・中学校時代の体育に関する調査を実施し、その認識傾向からより具体的な課題を明らかにして、今後の体育科教育の改善に資するための実状把握及び教育的検討を行う。

## Ⅱ．調査方法

1. 対象者は、調査1で、教職科目である「初等体育科教育法」受講生142名（男子53名、女子88名、不明1名）である。また、同様に調査2で、受講生101名（男子40名、女子61名）である。実施日は、調査1が平成8年5月、調査2が平成13年4月である。
2. 保健体育科に関わる調査（資料1）を作成し、これにより回答を求めた。調査の内容は、①教科の嗜好及び教科内容の嗜好、②教科の特徴、③教科内容の習得及び評価、④教科の評価の4事項の合計20項目よりなるものである。

## Ⅲ．調査結果の分析

### 1. 調査1

#### (1) 対象者の属性

##### 1) 学年と所属

回答者は、2・3年生が全体の約80%を占める。また、所属課程は小学校課程が47.9%であり、これに特体課程と幼稚園課程を合わせると全体の80%に達する。これは、「本授業科目」の履修資格が2年次となっていること、また、小学校課程で必修の科目であることによる。

##### 2) 性別

男子が約37%、女子が約62%であるが、男子の小学校課程と特体課程に占める割合が高い。女子では小学校課程が42%を占める。

#### (2) 教科の嗜好及び教科内容の嗜好

##### 1) 教科の嗜好

小学校時代の体育が「好き」であったと回答した者が約70%強である。男女別で見ると男子で80%弱、女子で70%の者が回答していることから男子の方がやや好意的と思える。

一方、中学校時代の保健体育が「好き」であったと回答した者は約60%弱である男女共に「好き」と回答した者の割合が小学校に比較して低い。また、「好き」「嫌い」と回答した理由を複数回答で求めたところ、「楽しかった（約65%）息抜きが出来る（50%弱）と

回答する者が多かった。

表1 小・中学校時代の体育の嗜好性(%) (n = 142)

|     | 大変好き | 好き   | 普通   | 嫌い  | 大変嫌い |
|-----|------|------|------|-----|------|
| 小学校 | 31.0 | 43.0 | 15.5 | 8.5 | 2.1  |
| 中学校 | 16.9 | 40.1 | 30.3 | 9.2 | 3.5  |

## 2) 教科内容の嗜好

小学校体育で興味を持てた領域としては、圧倒的に「ボール運動」を上げた者が多く、以下「水泳」、「陸上運動」、「器械運動」となる。男女別でもほぼ同様である。

中学校では、「球技」の人气が全体の75%強を占め、以下「陸上競技」、「水泳」などと続く。男女別でもほぼ同様である。

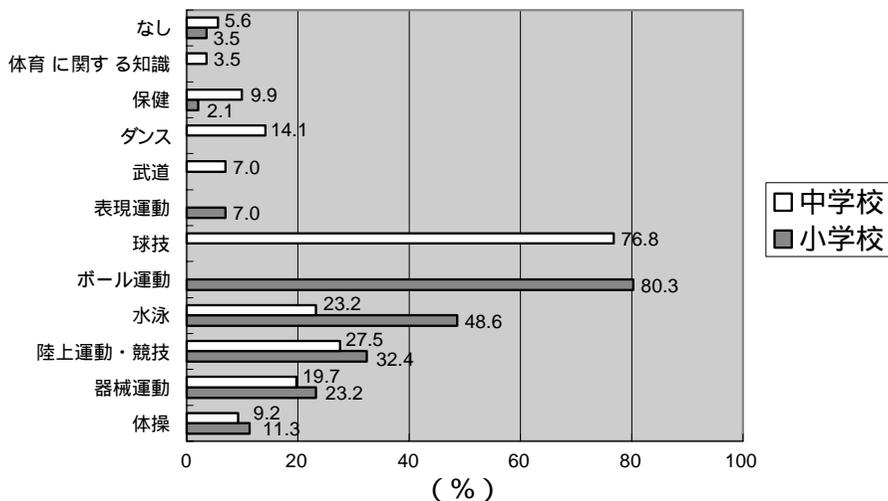


図1 小・中学校の教科内容の嗜好性(複数回答)(%) (n = 142)

## (3) 教科の特徴

体育及び保健体育科の特徴を捉えるために「授業での人間関係」、「わかることとできること」、「男女共習」、「体育の先生」について回答を求めた。それによると、人間関係の重要性を指摘する回答が90%以上にも達し、体育の授業が人間関係を学ぶ貴重な機会となっていることがうかがえる。「わかることとできること」については、約60%の者がどちらも大切と考えているが、体育では「できること」にウエイトを置くという印象を持つ傾向にあった。また、「男女共習」では約40%の者が賛成の意見を示し、約40%弱の者がどちらでも良いと回答している。さらに、体育教師の傾向の一端として、体育教師は授業より課外活動に熱心であり(40%弱)あまり民主的とは思えない(20%強)と回答する傾向があり(特に男子にその傾向が強い)十分に心に留めておく必要がある。

## (4) 教科内容の習得及び評価

### 1) 内容の習得

内容の中核と考えられる各種運動技術の習得方法やその場については、当然の事ながら

教師の指導によって運動技術を習得した者が約75%であるが、習得の場として「授業」のみならず「課外活動」を上げている者の割合がかなり高い。また、「友達との遊びの中で」と回答した者が65%を占め、授業以外の遊びでの運動技術習得の意味は見逃すことの出来ないことである。

運動技術を上達させる条件としては、約80%の者が「反復練習」、50%強の者が「場の工夫」と「適切な言葉」をそれぞれ回答している。そして、その場は「授業」より「課外活動」の方が多いと60%強の者が回答している。従って何のための授業なのか、授業のあり方が改めて問われなければならない。

## 2) 教科内容への評価

体育や保健体育で学んだことをいかに評価しているのだろうか？70%以上の者が体育で学んだ事柄の多くは、他の多くの技能系教科と同様に「生活を豊かにするもの」として認識していることが理解される。そして、これらの事柄が実際に日常生活に役立っていると回答している(75%強)。

さらに、「生活を豊かにするもの」と回答したもののうち、日常生活のどんな点で役立っているかについては「運動を楽しめるようになった(65%強)や、「スポーツに関心が持てるようになった(50%強)」「健康・安全に注意するようになった(50%強)」とそれぞれ回答する割合が多かった。

## (5) 教科の評価

教育活動全体の中で、体育科及び保健体育科についてその評価は、約95%の者が「体育は教育にとって欠くことのできない教科である」とその重要性を認識している。これは男女共ほぼ同様な傾向である。

教育活動における体育の重要性に基づいて、教科時間の増減の有無について回答を求めた。それによると、小学校の体育では、半数以上の者が「現状のままでよい」と回答しているが、現行の体育の時間より「増やすべきだ」としている者も28%あり、特に男子にその期待が大きい。一方、中学校の保健体育については、大多数の者が「現状のままでよい」と回答している。

従って、教科時間の増加は、男子回答者に支持する者の割合が高い傾向にあるが、女子はそれ程でもないことがわかる。教科の重要性の認識と教科時間の増加希望とは必ずしも相関があるとはここでは言えないようだ。

## 2. 調査2

### (1) 対象者の属性

#### 1) 学年と所属

回答者は、2年生が全体の80%強を占める。それに加えて3年生が10%弱で2・3年生が全体の約90%である。所属を見ると学校教育教員養成課程の学生が85%弱、生涯学習課程の学生が15%となっている。これは「本授業科目」が学校教育教員養成課程の2年生で必修科目であることによる。

#### 2) 性別

男子が約40%、女子が約60%であり、男子はその95%が学校教育教員養成課程に所属し

ている。また女子では75%強が学校教育教員養成課程、20%強が生涯学習課程に所属している。尚、体育・スポーツ科学専攻の学生は全体の約10%であった。

## (2) 教科の嗜好及び教科内容の嗜好

### 1) 教科の嗜好

小学校時代の体育が「とても好き」、「好き」であったと回答した者が約77%である。男女別では男子で80%、女子で75%の者が回答している。尚、女子に「とても好き」と回答した者が約45%あり、男子のそれを上回っている。

表2 小・中学校時代の体育の嗜好性(%)(n = 101)

|     | 大変好き | 好き   | 普通   | 嫌い  | 大変嫌い |
|-----|------|------|------|-----|------|
| 小学校 | 41.6 | 35.6 | 13.9 | 8.9 | 0.0  |
| 中学校 | 21.8 | 42.6 | 29.7 | 5.0 | 1.0  |

一方、中学校時代の保健体育が「とても好き」、「好き」であったと回答した者が約65%である。男女とも「とても好き」「好き」と回答した者の割合が小学校に比較して低くなっている。男女別では、男子の70%が「とても好き」、「好き」と回答し、女子では、約60%である。また「好き」「嫌い」と回答した理由を複数回答で求めたところ、「楽しかった」(80%強)息抜きが出来る(40%弱)の回答が多かった。

### 2) 教科内容の嗜好

小学校の体育で興味の持てた領域は、「ボール運動(77%)」が多く、次に「水泳」、「陸上運動」、「器械運動」となる。男女別では、男子は「ボール運動」に次いで「陸上運動」、「水泳」と「器械運動」がほぼ同じ割合で続いているのに対して、女子は「ボール運動」に続いて「水泳」の人气が高く(64%)、「器械運動」と「陸上運動」が同じ割合である。

中学校でも圧倒的な人気は男女とも「球技(80%強)」であり、以下「陸上競技」、「器械運動」、「水泳」の順である。男女別では、男子が「陸上競技」、「武道」、「器械運動」の順であり、女子が「水泳」、「器械運動」、「ダンス」の順であった。

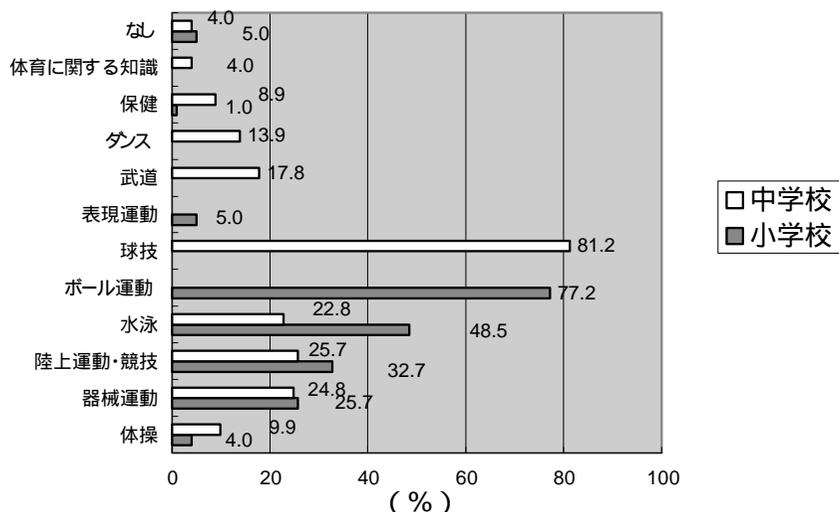


図2 小・中学校の教科内容の嗜好性(複数回答)(%) (n = 101)

### (3) 教科の特徴

体育及び保健体育科の特徴として、「授業での人間関係」、「わかることとできること」、「男女共習」、「体育の先生」の4項目について回答を求めた。これらの項目のうち、人間関係の重要性を指摘する回答が86%に達する。男女とも80%以上の者が大切と回答している。「わかることとできること」については60%強の者が「どちらも大切」と回答しているが、体育では「できること」にウエイトを置くという印象を持つ傾向にあった。「男女共習」では、約40%の者が「賛成」と回答しているが、「どちらでも良い」者も約40%存在する。さらに体育教師は、授業より課外活動に熱心であるとする回答がやや多く(30%強)特に男子では約半数近くの者(47%)が回答している。

### (4) 教科内容の習得及び評価

#### 1) 内容の習得

体育の学習内容の中核と考えられる「各種運動技術の習得方法」や「その場」についてみると、「体育の授業の中で教師の指導で」とする回答が70%弱である。これに加えて「課外活動での教師の指導」が約40%であるが、体育の授業や教師の指導以外の習得として「友達との遊びの中で(60%強)また「遊びの中で自分自身で(約35%)と回答した者の割合も高く、運動技術の習得に遊びの時間が大いに関係していることを示すものと言える。次に運動技術を上達させる条件は、男女とも90%強の者が「反復練習」と回答し、次に「場の工夫(約45%)適切な言葉(40%弱)と続く。またその場所として「授業」より「課外活動」のほうが多いと思っている(約58%)、特にこの割合は、男子の方に多い(約68%)、授業の内容が検討されねばならないだろう。

#### 2) 教科内容への評価

体育や保健体育で学んだことはどう評価されているのであろうか?80%以上の者が体育で学んだ事柄の多くは、他の多くの文化活動と同様に「生活を豊かにするもの」として認識しているようである。特に女子に顕著に見られ90%弱の者が「大変思う」、「思う」と回答している。またこれらの事柄が実際に日常生活に役立っているとする回答が85%であり、男女ともほぼ同じ割合である。さらに、「生活を豊かにするもの」と回答した者のうち、日常生活のどんな点で役に立っているかについて複数回答を求めたところ、「日常生活の中で運動を楽しめるようになった(65%強)」、「スポーツ全般に関心が持てるようになった(45%強)」、「健康・安全に注意するようになった(35%強)」がそれぞれ多かった。男女別では男子で「運動を楽しむこと(60%強)」と「スポーツに関心を持つ(60%弱)」、女子では、「運動を楽しめるようになった(約70%)」に多く回答している。

### (5) 教科の評価

教育活動全体の中で体育及び保健体育科についての評価は、97%の者が「体育は教育にとって欠かすことの出来ない教科である」とその重要性を認識している。男女ともほぼ同様な傾向であるが、特に女子は全員が賛成している。そこで教育活動における体育の重要性の指摘から教科時間の増減の有無について回答を求めた。小学校の体育では、現行の体育の時間より「増やすべきだ」としている者が20%弱あり、特に女子にその期待が大きい(25%)。「現状のまま」でいいと回答する者が約60%であった。一方、中学校の保健体育では、「現状の

まま」でよいと回答する者が約60%強であり、「増やすべきだ」とする回答は20%であったが、こちらも小学校同様、女子のほうにその期待が大きい(25%)。

### 3. 二つの調査の比較

#### (1) 対象者の属性

##### 1) 学年と所属

授業科目の履修条件より、両調査とも2・3年生が対象者の80～90%を占める。特に中心となるのは2年生である。また所属は、教員養成課程の学生が約80%、いわゆる「ゼロ免課程」の学生が20%弱である。

##### 2) 性別

両調査とも男子が約40%、女子が約60%である。この割合は、教育学部の近年の男女比構成を反映している。

#### (2) 教科の嗜好

小学校時代の体育が「好き」であったと回答した者の割合が70%以上あり、調査1(以下前回の調査と記す)よりも調査2(今回の調査と記す)のほうが3ポイント増加している。男女別では、前回の調査で男子の割合がやや高く、男子の方が好意的と思えるが、今回の調査では、女子が好意的に思っている割合が増加している為、その差が若干縮小してきている。

表3 小学校時代の体育の嗜好性(%) (調査1 n=142 調査2 n=101)

|      | 調査1  |      |      | 調査2  |      |      |
|------|------|------|------|------|------|------|
|      | 男子   | 女子   | 合計   | 男子   | 女子   | 合計   |
| 大変好き | 41.5 | 25.0 | 31.0 | 37.5 | 44.3 | 41.6 |
| まあ好き | 37.7 | 45.5 | 43.0 | 42.5 | 31.1 | 35.6 |
| 普通   | 11.3 | 18.2 | 15.5 | 10.0 | 16.4 | 13.9 |
| 嫌い   | 9.4  | 8.0  | 8.5  | 10.0 | 8.2  | 8.9  |
| 大変嫌い | 0.0  | 3.4  | 2.1  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |

中学校時代の保健体育では、「好き」であったと回答した者の割合が60%前後と小学校での体育の割合より減少するが、前回の調査より今回の方が小学校で約3ポイント、中学校で約7ポイント程度高い。

表4 中学校時代の体育の嗜好性(%) (調査1 n=142 調査2 n=101)

|      | 調査1  |      |      | 調査2  |      |      |
|------|------|------|------|------|------|------|
|      | 男子   | 女子   | 合計   | 男子   | 女子   | 合計   |
| 大変好き | 26.4 | 10.2 | 16.9 | 22.5 | 21.3 | 21.8 |
| まあ好き | 39.6 | 40.9 | 40.1 | 47.5 | 39.3 | 42.6 |
| 普通   | 28.3 | 31.8 | 30.3 | 27.5 | 31.1 | 29.7 |
| 嫌い   | 1.9  | 13.6 | 9.2  | 0.0  | 8.2  | 5.0  |
| 大変嫌い | 3.8  | 3.4  | 3.5  | 2.5  | 0.0  | 1.0  |

また「好き」「嫌い」の理由として「息抜きが出来る」、「楽しかった」の二つの理由を回答

した者が両調査ともかなりの割合に達するが、今回の調査では「楽しかった」が前回より約17ポイント上昇しているのに対して、「息抜きができる」が逆に約9ポイント低下している。

表5 教科の嗜好の理由(%)(調査1 n=98 調査2 n=71)

|         | 調査1  |      |      | 調査2  |      |      |
|---------|------|------|------|------|------|------|
|         | 男子   | 女子   | 合計   | 男子   | 女子   | 合計   |
| 先生      | 15.8 | 21.7 | 20.4 | 20.7 | 19.0 | 19.7 |
| 評価方法    | 13.2 | 16.6 | 16.3 | 0.0  | 4.8  | 2.8  |
| 楽しかった   | 78.9 | 55.0 | 64.3 | 89.7 | 76.2 | 81.7 |
| 息抜きができる | 52.6 | 45.0 | 48.0 | 37.9 | 40.5 | 39.4 |
| その他     | 5.3  | 8.3  | 7.1  | 6.9  | 11.9 | 9.9  |

(複数回答)

## 2) 教科内容の嗜好

小学校の体育で興味を持てた領域としては、両調査とも「ボール運動」を上げた者が圧倒的に多い。前回では、以下「水泳」、「陸上運動」、「器械運動」の順に人気がある点は同様であるが、今回の調査では男女別で男子では、「陸上運動」が、女子では「水泳」の人气がそれぞれ「ボール運動」の次に続く。

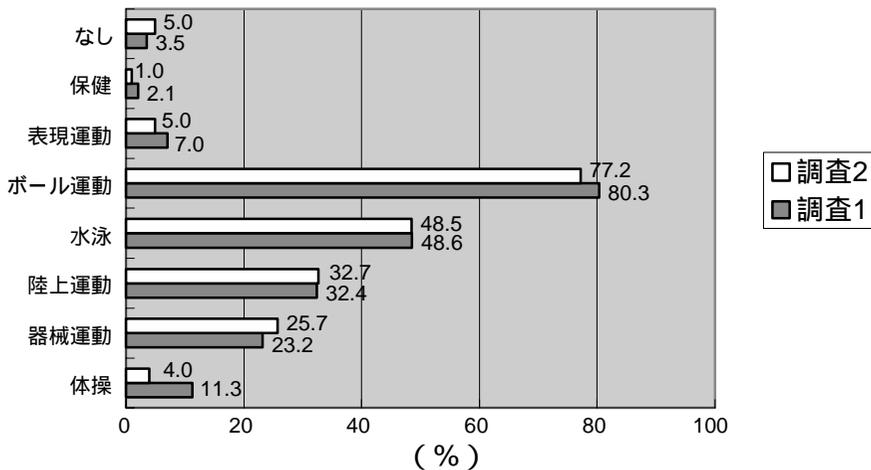


図3 小学校における教科内容の嗜好(複数回答)(%)(調査1 n=142 調査2 n=101)

中学校の保健体育で人気の高い運動領域は、両調査とも「球技」であり男女共通である。前回は、続いて「陸上競技」、「水泳」の順に人気があり、今回は、「陸上競技」、「器械運動」、「水泳」の順である。中学校では両調査とも小学校に比較して「水泳」の人气がやや低下している。

## 3) 教科の特徴

授業での人間関係の重要性を上げる割合が両調査とも大変高く(85%以上)体育の授業は人間関係を学ぶ絶好の機会としての特徴を持つことを指摘できる。また「わかることと

「できること」については、約60%の回答者がどちらも大切であると考えているが、体育では「できること」をより大切と考えている傾向にあり、この事は前回の調査と同様である。「男女共習」については、両調査とも約40%の者が賛成の意見を示し、約40%の者がどちらでも良いと回答している。

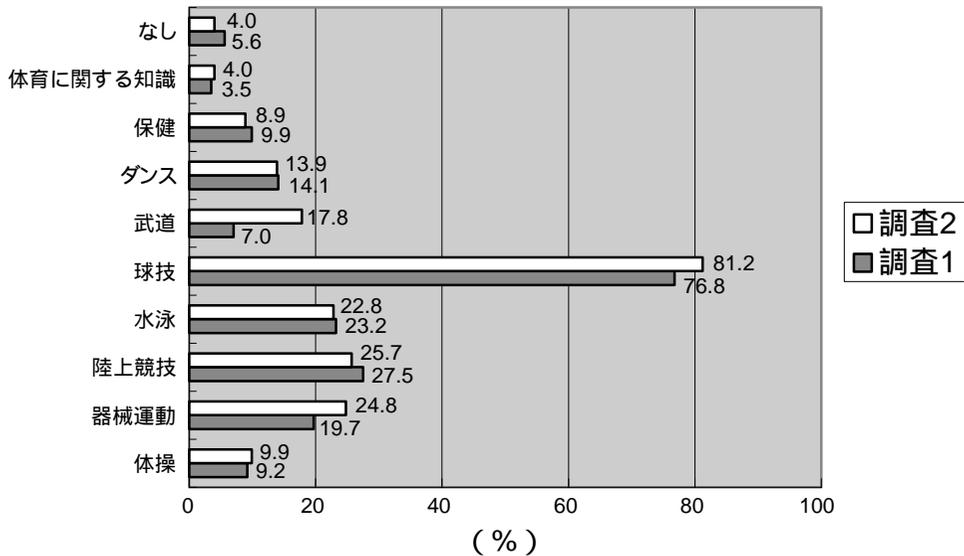


図4 中学校における教科内容の嗜好 (複数回答 % ) 調査1 n = 142 調査2 n = 101)

これは前回の調査とほぼ同様な傾向である。さらに「体育の先生」の項目では、体育教師が授業よりも課外活動に熱心だとする意見が30%~40%ある。その割合は前回の調査よりやや低下の傾向を示しているものの、男子においては逆にその傾向が強くなっている。

表6 体育教師の課外活動への熱意に関する比較( % ) 調査1 n = 142 調査2 n = 101)

|          | 調査1  |      |      | 調査2  |      |      |
|----------|------|------|------|------|------|------|
|          | 男子   | 女子   | 合計   | 男子   | 女子   | 合計   |
| 大変思う     | 7.7  | 8.0  | 7.8  | 12.5 | 9.8  | 10.9 |
| 思う       | 30.8 | 29.5 | 29.5 | 35.0 | 13.1 | 21.8 |
| どちらとも言えず | 44.2 | 43.2 | 43.3 | 37.5 | 50.8 | 45.5 |
| 思わない     | 15.4 | 19.3 | 18.4 | 15   | 26.2 | 21.8 |
| 全く思わない   | 1.9  | 0.0  | 0.7  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |

#### (4) 教科の内容の習得及び評価

##### 1) 内容の習得

各種運動技術の習得方法やその場については、両調査とも教師の指導によって運動技術を習得した者の割合が高かったものの、今回の調査では前回より約10ポイント程度低下している。教師の適切な指導による体育の授業中での運動技術習得の低下が懸念される。

習得の場は、授業のみならず「課外活動」や「友達との遊びの中」とする回答が相変わ

らず多く、さらに「遊びの中で自分自身で」が前回と比べて13ポイント上昇している。運動技術の習得方法やその場としては、遊びの中と学校生活の中で運動技術を習得し、遊びの中では自分自身や友達との中で、学校生活では授業と課外活動でそれぞれ習得したことが伺える。この傾向は前回同様である。

表7 各種運動技術の習得状況について(%) 調査1 n = 142 調査2 n = 101)

|                | 調査1  | 調査2  |
|----------------|------|------|
| 体育の授業の中で教師の指導で | 77.3 | 67.3 |
| 課外活動での教師の指導で   | 36.9 | 40.6 |
| 教師以外の大人の指導で    | 16.3 | 16.8 |
| 友達との遊びの中で      | 64.5 | 61.4 |
| 遊びの中で自分自身で     | 21.3 | 34.7 |

(複数回答)

運動技術を上達する条件は、「反復練習」、「場の工夫」、「適切な言葉」を両調査とも男女それぞれ共通に回答している。しかもその割合は、反復練習を上げる者の割合が今回約10ポイント程度高くなっている。逆に場の工夫、適切な言葉の回答が大きく低下している。そしてその場は「授業」より「課外活動」の方が多いと全体で60%前後の者が回答しており、また、両調査とも男子(70%前後)が女子(50%強)よりその傾向が強いことがうかがえる(表9)。

表8 運動技術の上達の為の条件について(%) (調査1 n = 142 調査2 n = 101)

|          | 調査1  | 調査2  |
|----------|------|------|
| 視聴覚機器    | 8.5  | 11.9 |
| 場の工夫     | 57.4 | 44.6 |
| 補助的用具・器具 | 36.2 | 27.7 |
| 適切な言葉    | 52.5 | 37.6 |
| 反復練習     | 79.4 | 93.1 |

(複数回答)

表9 運動技能上達の場面についての調査比較(%) 問い15) 調査1 n = 142 調査2 n = 101)

|           | 調査1  |      |      | 調査2  |      |      |
|-----------|------|------|------|------|------|------|
|           | 男子   | 女子   | 合計   | 男子   | 女子   | 合計   |
| 大変思う      | 28.3 | 8.0  | 15.5 | 10.0 | 6.6  | 7.9  |
| 思う        | 45.3 | 51.1 | 49.3 | 57.5 | 45.9 | 50.5 |
| どちらとも言えない | 20.8 | 35.2 | 29.6 | 30.0 | 42.6 | 37.6 |
| 思わない      | 3.8  | 5.7  | 4.9  | 2.5  | 4.9  | 4.0  |
| 全く思わない    | 1.9  | 0.0  | 0.7  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |

## 2) 教科内容への評価

体育や保健体育で学んだ事への評価は、「生活を豊かにするもの」として評価している。その割合も今回の調査では、前回より10ポイント程度上昇し80%以上の者が回答している(表10)。そして「日常生活に役立っている」とする回答も10ポイント程度上昇し、85%弱の割合になっている。さらに、「生活を豊かにするもの」と回答した者のうち、日常生

活のどんな点で役に立っているかについて複数回答を求めたところ、「スポーツ全般に関心を持てるようになった」で約7ポイント前回より上昇したが、「運動を楽しめるようになった」は前回とほぼ同じ割合であり、また「健康・安全に注意するようになった」は17ポイント程度前回の調査より低下している(表11)。従って、体育の授業を受けることで運動全般に関心を持ち、適度な運動を行うことによる効果を知ることが、必ずしも運動実践につながっていない傾向にある。

表10 体育及び保健体育科での学習による効果に関する両調査の比較(問118)(%)  
(調査1 n=142 調査2 n=101)

|          | 調査1  |      |      | 調査2  |      |      |
|----------|------|------|------|------|------|------|
|          | 男子   | 女子   | 合計   | 男子   | 女子   | 合計   |
| 大変そう思う   | 32.1 | 8.0  | 16.9 | 22.5 | 27.9 | 25.7 |
| そう思う     | 45.3 | 63.6 | 57.0 | 55.0 | 60.7 | 58.4 |
| どうとも言えない | 18.9 | 23.9 | 21.8 | 20.0 | 11.5 | 14.9 |
| 思わない     | 0.0  | 3.4  | 2.1  | 2.5  | 0.0  | 1.0  |
| 全く思わない   | 3.8  | 1.1  | 2.1  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |

表11 体育及び保健体育科での学習による効果に関する両調査の比較(問120)(%)  
(調査1 n=108 調査2 n=86)

|                      | 調査1  |      |      | 調査2  |      |      |
|----------------------|------|------|------|------|------|------|
|                      | 男子   | 女子   | 合計   | 男子   | 女子   | 合計   |
| 日常生活の中で運動を楽しめるようになった | 61.4 | 71.9 | 67.6 | 63.6 | 69.8 | 67.4 |
| 積極的に行動できるようになった      | 25.0 | 18.8 | 21.1 | 9.1  | 20.8 | 16.3 |
| 体力作りをするようになった        | 20.5 | 15.6 | 17.4 | 27.3 | 18.9 | 22.1 |
| スポーツ全般に関心を持てるようになった  | 68.2 | 43.8 | 53.2 | 57.6 | 39.6 | 46.5 |
| 健康、安全に注意するようになった     | 68.2 | 43.8 | 53.2 | 24.2 | 43.4 | 36.0 |

(複数回答)

#### (5) 教科の評価

体育は教育にとって欠くことの出来ない教科であると評価する者が多く、両調査とも95%以上である。特に今回の調査では、女子が100%の賛成を示した。従って、教育活動全体の中で体育科を重要な教科として認識していると考えて良いと思える。

表12 教育における体育科の必要性について(%) (調査1 n=142 調査2 n=101)

|     | 大いに賛成 | 賛成   | どちらでもない | 反対  | 大いに反対 |
|-----|-------|------|---------|-----|-------|
| 調査1 | 35.9  | 58.5 | 4.9     | 0.0 | 0.7   |
| 調査2 | 39.6  | 57.4 | 3       | 0.0 | 0.0   |

教科の重要性の認識に関係して、教科時間の増減の有無について回答を求めた。まず小学校体育で両調査とも現状のままが良いとする意見が多いが、前回の調査では男子に「増やすべきだ」とする意見が見られる。今回の調査では女子に若干その傾向が見られる。中学校の保健体育では、両調査とも大多数の者が「現状のままが良い」と回答しているが、今回の調査で「増やすべきだ」とする回答が女子に若干多く見られるのが特徴である。

#### IV. まとめ

教職科目である「初等体育科教育法」受講者を対象として小・中学校の体育及び保健体育に関する教科の特性及び課題把握を試みた。その結果以下の事が明らかとなった。

##### 1. 調査 1

(1) 体育及び保健体育教科は、子どもたちにとって好意的に受け止められており、特にその程度は、女子より男子の場合に高い傾向にある。小学校の体育の方が中学校の保健体育と比較して人気がある。その理由は、取り扱われる運動が楽しかったり、活動欲求が満たせるなどにありいわゆる運動のプレイ要素の重要性が指摘できる。体育や保健体育の内容として人気のある運動領域は、圧倒的にボール運動や球技であり、以下若干順位に変動があるものの、陸上運動・競技、水泳、器械運動が高い人気である。

(2) 体育や保健体育の授業では、好ましい人間関係を身をもって学ぶ場であると考えられている。学習内容については、わかることとできることの統一が望ましいが実践的側面が優先すると認識している傾向にある。中学校での男女共習は、男子に肯定的意見が多い。また体育教師の一部には、授業より課外活動を優先させたり、あまり民主的と思えない人の存在が認められる。

(3) 教科内容の中核と考えられる各種運動技術の習得方法と場については、授業のみならず課外活動での教師の指導を中心としながらも遊びの中で自然と身につけた者も多数存在する。また、運動技術の上達は授業よりも課外活動によって行われ、上達に不可欠な条件は反復練習、場の工夫及び適切なアドバイスである。一方、教科内容の評価に関して体育で学んだ事柄の多くは生活を豊かにするものであると認識し、日常生活の中で運動を楽しんだり、スポーツに関心が持てるようになったことを上げている。

(4) 体育・保健体育科は、教育活動の中で極めて重要な位置を占める教科であるが、教科時間の増減については現状の時間数のままで良いとする者が大多数である。特にこの意見は、女子に多い傾向にある。

##### 2. 調査 2

(1) 体育及び保健体育は、子どもたちにとって好意的に受け止められており、この傾向は男女とも同様である。特に小学校の体育は、子どもたちに大変人気のある教科である。その理由は、運動が楽しい、また息抜きが出来るなどの授業の持つ解放性にあると考えられる。教科内容で人気のある領域は、小・中学校ともボール運動・球技である。

(2) 体育及び保健体育の授業は、運動をすることの他に好ましい人間関係を身をもって学ぶ場であるとも考えている。運動学習の習得では、わかることと出来ることの両方が大切と考えているが出来ることを優先させる傾向にある。いわゆる技能教科としての一端を示してい

ると言えよう。男女共習については、どちらでもかまわない、賛成とする意見がある。体育教師の一部には、授業より課外活動に熱心である人の存在も認められる。

- (3) 運動技術の習得は、授業における教師の指導によって身につけているが授業以外においても仲間との遊びの中で身につけている者も多い。上達に不可欠な条件は、反復練習、場の工夫及び適切な言葉が重要である。
- (4) 体育で学んだことは、生活を豊かにするものであり、日常生活では運動に関心を持ち運動を楽しんだり、健康・安全に注意するようになったと認識している。
- (5) 体育・保健体育科は、教育活動全般の中で極めて重要な位置を占める教科として考えているが、その重要性から教科時間が増加すべきだという意識までには至っていない。

### 3. 二つの調査の比較から

- (1) 体育及び保健体育教科は、子どもたちにとって大変人気のある教科として変わりなく受け止められている。学習内容も変わりなくボール運動・球技に人気があり、これらの学習を通して望ましい人間関係、運動技術の習得を身につける教科との認識は変わらない。
- (2) 体育及び保健体育科で身につけた内容は、生活を豊かにするものであると認識しているが、日常生活に活用する割合は増加していない。
- (3) 体育及び保健体育教科は、小・中学校段階の教育にとって欠くことの出来ない教科であるという認識が高まる傾向にある。

### 引用・参考文献

- 1) 中央教育審議会(1996)「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」 審議のまとめ
- 2) 教育課程審議会(1997)「教育課程の基準の改善の基本方向について」 中間まとめ
- 3) 片岡暁夫(1999) 『新体育学の探究』 不昧堂出版

保健体育科教育に関わるアンケート調査

この調査は、今後の義務教育段階における体育科、保健体育科教育の改善に資するために行うものです。ご協力くださいますようお願いいたします。尚、この調査結果は研究にのみ使用し、他の目的には使用しません。

記入の方法

該当する番号または記号に○印をつけてください。( ) 内には文字または数字を記入してください。

問い

1. あなたの性別は？  
a 男    b 女
2. あなたの学年は？  
(        ) 回生
3. 所属はつぎのどこですか？  
a 学校教育教員養成課程 (                  専修)  
b 生涯学習課程 (                  専修)    c その他 (                  専修)
4. あなたは、小学校時代の全体を通してみた場合、体育は好きでしたか？  
a 大変好きだった    b まあ好きだった    c ふつう    d 嫌いだった    e 大変嫌いだった
5. それまで体育が好きだったが、5年生や6年生の頃に嫌いになったというような記憶はありませんか？  
a そのようなことがあった    b そのようなことはない    c そこまで詳しく覚えていない
6. 中学校時代には保健体育はどうでしたか？  
a 大変好きだった    b まあ好きだった    c ふつう    d 嫌いだった    e 大変嫌いだった
7. 6. の質問の「好きだった」あるいは「嫌いだった」の理由としては、以下のどのような要因が上げられますか？(複数回答可    ☐その場合には順序をつける    ◎○△など    以下同様)  
a 先生    b 評価方法    c 楽しかった    d 息抜きができる    e その他 (                  )
8. 小学校の体育で、興味のもてた領域は下記のどれですか？(複数回答可)  
a 体操    b 器械運動    c 陸上運動    d 水泳    e ボール運動    f 表現運動  
g 保健    h 何もなかった
9. 中学校の保健体育で、興味のもてた領域は下記のどれですか？(複数回答可)  
a 体操    b 器械運動    c 陸上競技    d 水泳    e 球技    f 武道    g ダンス  
h 体育に関する知識    i 保健    j 何もなかった
10. 体育の授業では、内容のいかんにかかわらず男女一緒に学習すべきであると思う。  
a おおいに賛成    b 賛成    c どちらでもない    d 反対    e おおいに反対

うらへ

11. 体育の授業では、人間関係が大切であると思う。  
a 大変そう思う    b そう思う    c どうとも言えない    d 思わない    e 全く思わない
12. 体育の授業では、認知的側面（わかること）と実践的側面（できること）とがありますが、やはり実践的側面のほうが大切であると思う。  
a 大変そう思う    b そう思う    c どちらも大切    d 思わない    e 全く思わない
13. あなたは各種運動技術を主にどのようにして習得しましたか？（複数回答可）  
a 体育の授業の中で教師の指導で    b 課外活動での教師の指導で    c 教師以外の大人の指導で  
d 友達との遊びの中で    e 遊びの中で自分自身で
14. 運動技能を上達させるにはどのような条件が必要だと思いますか？（複数回答可）  
a 視聴覚機器    b 場の工夫    c 補助的用具・器具    d 適切な言葉    e 反復練習
15. 運動技能を上達させる場合は、体育の授業よりは課外活動のほうが多いと思う。  
a 大変そう思う    b そう思う    c どちらとも言えない    d 思わない    e 全く思わない
16. 体育の先生は、授業よりも課外活動に熱心であると思う。  
a 大変そう思う    b そう思う    c どうとも言えない    d 思わない    e 全く思わない
17. 体育の先生は、みんなの意見を尊重するなど民主的であると思いますか？  
a 大変そう思う    b そう思う    c どうとも言えない    d 思わない    e 全く思わない
18. 体育で学習したことは、音楽や美術とおなじように生活を豊かにするものであると思う。  
a 大変そう思う    b そう思う    c どうとも言えない    d 思わない    e 全く思わない
19. これまで体育で学習してきたことは、現在のあなたの生活に役立っていると思いますか？  
a 非常に役立っている    b 少しは役立っている    c どちらとも言えない  
d あまり役立ってない    e 全然役立ってない
20. 19. の質問で、aまたはbと答えた人にお聞きします。以下どのような点で役に立っていると思いますか？  
a 日常生活の中で運動を楽しめるようになった    b 積極的に行動できるようになった（複数回答可）  
c 体力づくりをするようになった    d スポーツ全般に関心が持てるようになった  
e 健康、安全に注意するようになった
21. 体育科は、教育にとって欠くことのできない一つの教科であると思う。  
a おおいに賛成    b 賛成    c どちらでもない    d 反対    e おおいに反対
22. 小学校において、体育の時間をもっと増やすべきだと思いますか？  
a 増やすべき    b 現状のままでよい    c 減らすべき    d 特に意見はない    e その他  
( )
23. 中学校においてはどうか。保健体育の時間をもっと増やすべきだと思いますか？  
a 増やすべき    b 現状のままでよい    c 減らすべき    d 特に意見はない    e その他  
( )

以上で質問は終わりです。協力していただき大変ありがとうございました。